自慢の〝のど〟を岸川節で披露

第19回岸川節全国大会

▲大会の様子（少年２部）

◀最年少出場の右近阿斗（うこんあと）武（むくん）（２歳）と姉の右近彩葉（うこんいろは）さん

19回目となる岸川節全国大会が９月15日、多久市中央公民館大ホールで行われました。市内外から213人が参加。部門ごとに自慢の“のど”を岸川節で競いました。遠くは神奈川県から天野康弘さん、稲垣洋子さんが初エントリー。ふたりは神奈川の民謡教室で岸川節と出会い、歌詞の方言などを調べていくうちに、今大会実行委員長の杉山嘉隆さんとの出会いがきっかけでの出場でした。また、天野さんと稲垣さんの合作で岸川万五郎さんをイメージして、イラスト「まんごろうさん」を作成され、実行委員会へ提供いただきました。

白熱した大会の結果は、総合優勝 青壮年の部（竹）１位 中山和成さんでした。

▲今回初参加の、稲垣洋子さん（左）と天野康弘さん（右）

▲岸川万五郎さんをイメージして作られた「まんごろうさん」

市長表敬訪問　～長寿を祝い～

多久市最高齢者の梶原さんと11人の100歳の長寿者を祝う

◀特別養護老人ホーム天寿荘での訪問の様子

９月14日に市内最高齢者の梶原コマツさん（104歳）と100歳になられた11人を横尾市長が表敬訪問。花束とお祝い金を贈り長寿を祝いました。

明治43年生まれの梶原コマツさん（番所）は、市長からお祝い状と花束を贈られると「わざわざ来ていただいて（嬉しくて）涙が出てきます。来てもらってありがとうございます」と感謝を述べられました。ご家族は「母はおしゃべりが好きで、くよくよしない性格。好き嫌いなく何でも食べることが長寿の秘訣です」と話されました。

なお、市では市長訪問と別に、市職員と民生委員が訪問して100歳以上の５人と米寿（88歳）を迎えられた258人へ、今後の健やかな長寿を願い敬老祝い金を贈りました。

該当者は９月15日現在の年齢です。

◀市内最高齢者の梶原さんと長寿を祝う市長

西渓校７年生（中１）が「釈菜の舞」の練習に励んでいます　9/17

毎年春と秋の年２回執り行われている釈菜で披露される西渓校７年生（中１）の「釈菜の舞」の練習が９月から週に１回行われています。

「郷土を知る」をテーマにした『総合的な学習』の時間に行われているもので、生徒の指導にあたるのは、（公財）孔子の里「釈菜の舞」（会員数15人）の会員のみなさん。およそ１時間、立ち振る舞いや全体の動きなど入念に練習を積み重ねます。７年生の三瀬公博（きみひろ）さんは、「自宅でも練習し、イメージトレーニングに励んでいます」と笑顔で語りました。

佐賀たばこ販売協同組合小城多久支部老人ホーム慰問　9/11

敬老の日を前に、地域社会への貢献の一環として、佐賀たばこ販売協同組合小城多久支部（支部長 大坪幸佑）が老人ホームを慰問し、タオルとお菓子を贈呈しました。

老人ホームの慰問は20年以上続けられている取り組みで、小城多久支部の大坪支部長、女性部のみなさんが小城・多久市内の老人ホーム５か所を訪問。多久市では天寿荘、けいこう園が選ばれました。贈呈されたタオルは、小城・多久市内のたばこ販売店あわせて83軒よりそれぞれ２枚ずつ寄附されたものです。